

## 運用実績の良い日本株ファンド

6月4日付けのクルーレポートで「アクティブ型ファンドの選び方」について述べさせていただいた。そこでは、国内株式を例として、市場指数と連動するインデックス型ファンドに魅力を感じない場合は、アクティブ型ファンドが選択肢になるとし、ファンド選びの方法を紹介させていただいた。

具体的には、モーニングスターやイボットソンなどのサイトを利用して、リスク調整後リターンであるシャープレシオのランキングなどを利用して、運用実績の良いファンドを投資候補とすべきとした。

今回は、日本株アクティブ型ファンドの中で、これまでの運用実績が良かったものとして、DIAMアセットマネジメントの「DIAM新興市場日本株ファンド」と、JPモルガン・アセット・マネジメントの「JFザ・ジャパン」の2つのファンドを紹介させていただく。

2011年6月30日現在で、この2つのファンドの過去6ヶ月間、1年間、3年間の騰落率(=各期間でどれだけ値上がりしたか値下がりした

かという数値、年率換算はしていない)は下の図表の

通りだが、どの期間をみても、この間の日経平均株価や東証株価指数の騰落率を大きく上回っている。

たとえば、3年前の2008年6月30日に、日経平均株価や東証株価指数と連動するインデックスファンドに投資していたとすれば約30%ほどの損失を被っていたことになるが、この2つのファンドに投資していれば利益をあげることができていた。このように、市場全体が低迷傾向だったとしても、運用がうまくいけばリターンが期待できるのがアクティブ型ファンドの魅力である。

各ファンドの運用面の特色等は次の通りである。

DIAM新興市場日本株ファンド…ジャスダック、東証マザーズ等の新興市場に上場されている銘柄を主要投資対象とする。純資産総額の3割程度を上限に、新興市場以外に上場している中小型株に投資することもある。業種比率、時価総額などにとらわれず、個別銘柄調査を通じて銘柄を選別する。6月30日現在で84銘柄に投資しており、組入上位銘柄

は、サイバーエージェント、ヤフー、UTホールディングス、フェローテック、グリーなど。

JFザ・ジャパン…日本の産業構造が変化していく中で、利益成長性が高く、株主を重視した経営を行っており、かつこれらの状況を市場が織り込んでいない、トップクラスの株価上昇が期待できる企業に投資する。アナリストを介さずに、運用チームが企業取材を直接行うことで、銘柄選定の意思決定を迅速に行う。大胆な銘柄入れ替えに特徴があるが、6月30日現在の組入銘柄数は66、5月31日現在の組入上位銘柄は、サンリオ、スカイマーク、アンリツ、チタン工業、山洋電気など。

2つのファンドとも、基本的に小型株中心で運用しているため、大型株が人気を呼ぶような相場展開になった場合は、他の日本株ファンドより運用実績が劣化する可能性がある。また、DIAM新興市場日本株ファンドは純資産総額がかなり小さいが、その実績が人気を呼び急激な資金流入があった場合、あるいは大口の解約があった場合などに、運用に支障をきたす可能性もあり得ることに留意しておく必要がある。

(クルー 目黒政明)

## ■運用実績(分配金込みの騰落率、2011年6月30日現在)

	6ヵ月間	1年間	3年間
DIAM新興市場日本株ファンド	+18.42%	+29.21%	+68.54%
JFザ・ジャパン	+4.2%	+17.5%	+11.7%
(参考) 日経平均株価	▲4.04%	+4.62%	▲27.19%
(参考) 東証株価指数	▲5.52%	+0.93%	▲35.67%

## ■ファンド基本情報(2011年6月30日現在)

	設定日	信託期間	純資産総額
DIAM新興市場日本株ファンド	2007年11月29日	2017年11月28日	13.7億円
JFザ・ジャパン	1999年12月15日	無期限	84.1億円

	申込手数料	信託報酬	信託財産留保額
DIAM新興市場日本株ファンド	3.15% (※1)	年率1.596%	0.3% (換金時)
JFザ・ジャパン	3.15% (※2)	年率1.785%	なし

(※1) SBI証券、楽天証券などでは無料 (※2) SBI証券、楽天証券などでは1.05%